

<今回>205回目 2017年2月20(月)15時~18時 1503号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」95P 五より

<前回>204回目(17-2-10) 出席者6名

資料 17-01-30-1) 前回のまとめ(清水)

-2) 中国王朝変遷図(高山)

-3) 漢文学習参考図(高山)、漢文歴史地図(高山)

A 報告

2月7日についてがあり、関西の大下、木村賢二氏と昼食をともにし、3時まで懇談した。皆さんでお菓子の土産をもらったのでわけた。津多家で6名、10032円(1500+1600+1700・4)、-132

B 資料 -2) 高山さんから漢文の歴史地図、学習参考図、中国王朝変遷図の提供をいただいた。カラーで地図など見やすかった。かみ(神)おみ(臣)たみ(民)の3区分や大夫の呼称、太郎の太など中国階層の呼び名について各自意見がかわされた。地図は春秋、戦国、前漢、三国の四図と唐時代の文学地図が示されていた。

C 直接証拠と間接証拠 好太王碑文(酒匂本)の来歴 後藤孝典氏に答える

一) 後藤孝則氏が直接証拠と状況証拠について反論を挑まれたので、証拠価値の問題について、史学大会の発表、高句麗好太王碑文の新事実—李進熙説への批判を中心として—(1972年)にこの二語を使い、これが独り歩きしているので、その歪みを是正するため反論する。

1) 朝日新聞1972-11-13付け朝刊報道の骨子の1つ、酒匂大尉を犯人とするには直接証拠が必要で、李氏のは状況証拠に過ぎないと、述べて、直接証拠があるに越したことはないが改竄が事実だとすれば直接証拠を残すはずはないから、状況証拠しかない。改竄が参謀本部、酒匂大尉の企画実行の自白しかない。だから状況証拠しかないと言田に対して具体的内容を問題にせず言葉の2語だけ問題に観念上の議論をしている。

2) 古田は「**碑文之由来記**」(明治写、宮内庁書陵部蔵)が酒匂本(東京国立博物館現蔵)来歴の真相について直接証拠を提示した。①この文書は酒匂中尉が参謀本部に提出した部内報告の内容を再写謹書したもので、その用途は宮内省(明治天皇)に酒匂本を献上した際の付載文書である。②この文書の筆跡は酒匂中尉自身の自筆である。③すなわちこの文書は「公的機関」に提出された本人の自作自筆文書であり、史学上第1等の史料である。④その中に「1 昨年(当時の答)盛京將軍左氏工人 4 名ヲ天津ヨリ呼ビ之ヲ摺写セシム 故に**強迫シテ**漸ク手ニ入レタリ」と明記されている。⑤本人が外部でなく内部たる参謀本部や宮内省(明治天皇)に対してこの問題について隠蔽する必要のないことは自明である。これとは対照的なのは外部に対せる発表物たる「会余録」には「日本人某適比の地に遊び因りて其の一を求め得齎し還る」として内部文書の強迫という事実は慎重にとりのぞかれている。

二) 状況証拠について李氏は考古学上の「編年手法」を好太王碑の双鈎本、拓本、写真の類に転用した。この方法は明治時代では古代と異なり、文字文明のまっただ中で本人や親類縁者も現に生存している酒匂家の遺族の家に酒匂景信の自筆が大切に保存され、酒匂本献上に關した宮内省が受領した受領文書(酒匂家文書、宮崎県総合資料館現蔵)まで残っていた。下付された銅花瓶は日常生活の中心に公然と据えられて外箱には酒匂自身の手で年時、氏名の自記が書付られていた。

三) 酒匂本は130数枚の紙片を四面現碑通り貼あわせた形であるが、3か所に大きな位置の誤りがある。酒匂らは原碑面を的確に認識していなかったことを示す。改削犯行説を明白に否定している。

四) 中国、朝鮮側試料4例を挙げ、1874年頃この碑の伝が北京に入り、1875年頃清朝側の著文人・官吏が実現していることを示している。酒匂は1883、4年ごろに入手した。改削したのを清朝側が気づかなかったことのある筈がないことを示している。

(次回日程 3-3(金)16時から19時、1503号室)